

職員による自己評価

A環境面

療養通所とスペースを共有しているため活動スペースの制限はあるが活動に応じて環境づくりをしている。コロナ禍においても1日休所日は発生したが支援を続けることができた。

B 児童への支援内容

計画立案はアセスメントに使用するツールについては共通のものを使用していない。今年度の利用者は1名であったこともあり、個別的なケアや活動となっている。職員間のコミュニケーションは勤務時間の関係から支援前に打ち合わせを行い、終了後は児の記録を記入、次の活動前に必要に応じて打ち合わせを行うようにしている。すべての打ち合わせが記録に残るわけではないためプロセスが確実に周知できるように記録を充実させる必要がある。

C 関係機関との連携

他施設・学校も接点がある児だが、相談支援員とのやり取りがほとんどであった。横のつながりをもちながら支援にあたる必要があると考える。

D 保護者への説明責任・信頼関係

就労のため送迎時にやり取りができないが記録での報告と電話で話す機会を持ちコミュニケーションを図っている。利用者数が1名であり現在父母の会はない。今後の課題である。

E 非常対応

療養通所と共通で年2回防災訓練を行っている。
マニュアルをしらない

保護者による評価

A環境面

必要なスペースは確保されている

B 児童への支援内容

ニーズに沿った支援計画で支援が行われている。

C 事業所からの情報発信

父母の会や事業所の会報はない。
支援時の様子などの情報伝達はできている。

D 非常対応

非常時のマニュアルは見たことがない。

事業所内での分析

【共通点】

活動スペースなどの必要な環境は確保されている。
ニーズなどが反映された支援計画にそった支援が行われている。
支援時の様子などは家族に共有できている。

【相違点】

非常対応について、マニュアルがわからない。
事業所からの情報発信がない。

分析・検討してみて…

事業所の改善点

事業所の強み

個別的なニーズを汲んだ支援計画
体調・状況に合わせた日々の活動
活動中の様子の記録・写真の共有

緊急時の対応マニュアルの周知
事業所としての情報発信の手段を検討
打ち合わせ内容が周知できるような記録づくり
関連機関との連携強化
親同士のつながりの機会について検討

事業所の改善への取り組み

- ・緊急時の対応についてはマニュアルの案内とともに児に必要な対応方法を家族と共に整え、緊急時に十分な対応ができるようにしていく。
- ・細かな打ち合わせを可視化して職員間の意思疎通を推進する。
- ・状況に応じて関係機関との情報交換を行う。
- ・会報などで情報発信を行う。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者様の評価のみならず、事業所内でもそれぞれ認識が異なる分野があることが分かったので自己評価を行い今後の改善点を検討できたことがとても良かった。

事業所名 悠 YOU こどもデイ

担当者 那須 夕子